

法務の役割って何ですか？ その1

鳥飼総合法律事務所 弁護士 鳥飼重和

法務の機能が拡大していることは、それなりの規模の大企業の経営者・法務マンは認識している。だが、次のことに真正面から答えられる経営者・法務マンは、どれだけいるのだろうか。

- ・法務部門の存在理由は何か？
- ・法務の役割とは何か？

この質問に正解しなければ、法務の機能拡大は効率的な面での的を射ていないことになるので、その機能拡大は効率的でないことになる。実際のところ、この質問に正解できる経営者・法務マンは稀であると思われるから、現在の法務機能の拡大は、経営の面から見て非効率だということになりそうである。

その最大の原因は、経営の効率性と経営の健全性との関係を株式会社の存在理由との関係で捉えていないからである。

- ・株式会社の存在理由とは何か？
- ・経営者の役割とは何か？

社会において、組織とは、人と社会をより良くするための存在であるが、その中で、株式会社の存在理由は何か。有限責任という制度を使って社会から多くの資本を集め、それを人と社会をより良くすることのために活用することで資本を最も合理的に循環させる組織である、といえよう。

このように、株式会社は、人と社会をよりよくするために資本を集め、それを循環させる組織であるから、人の幸福と社会の発展を考える現代国家において、その存続と発展が期待される組織である。

現在の100年に1度の経済危機は、株式会社である金融機関が、人と社会をより良くするための存在である株式会社の存在理由を遥かに越えて、過度に短期的な資本の循環をさせようとしたために起きたものである。つまり、現在の経済危機は、株式会社である金融機関の経営者が、株式会社とは何か、を無視したことによって引き起こされた悲劇なのである。

このような過度に短期的な資本の循環を考えているのは、必ずしも、金融機関ばかりではない。投資ファンドに代表されるように、経営者に短期的な視点で業績向上と株主への還元を求める資本市場の株主も、株式会社の本来の存在理由を超えた要求をしているのである。

今、社会は、株式会社が本来の存在理由に立ち帰り、人と社会によりよき貢献をする存在になってほしいと期待している。この期待に応え、経営者は、株式会社の存在理由を考え直し、そこから経営者の役割を考えることが求められているのである。この株式会社の存在理由、そこから導かれる発展の理由を考えると、経営の効率性と経営の健全性が正しく理解されるようになり、そこから、真の法務の役割が見えてくる。

鳥飼重和（とりかい しげかず）

税理士事務所勤務後、司法試験に合格。日本税理士会連合会顧問。専門分野：内部統制・役員責任を中心とした会社法。税務訴訟を中心とした税法。著書：『内部統制時代の役員責任』（共著、商事法務、2008）、『「考運」の法則』（同友館、2009）など他数。